

テニスにおけるゲーム分析の活用 The application to the game analysis in tennis

1K08A022-1

指導教員 主査葛西順一先生

第一章 緒言

早稲田大学庭球部は 100 年以上の歴史を誇り、それと同時に数々の輝かしい成績を残してきた。現在、全日本大学テニス王座決定試合で 7 連覇している庭球部の強さの要因として分析班による対戦相手チームの戦略分析が挙げられる。テニスにおける戦略とは、対戦相手の特徴や自分の長所、コートサーフェース、気候など様々な要素を上手く組み合わせて、その試合に勝利するためのものである。

対戦相手チームの戦略分析に関する詳細は、部外に漏らされることによるデメリットを考慮し、一般に公開されることはない。しかしながら、それらを公開することによって、テニス競技自体の発展やより良い戦略分析の方法の開発に繋がる可能性がある。

そこで本研究では、早稲田大学庭球部における戦略分析データの詳細および活用例を明らかにするとともに、分析データの活用方法に関する選手へのアンケート調査の結果を踏まえ、戦略分析の実際の効果およびより良い活用方法について考察をすることを目的とした。

第二章 相手の戦略分析の方法

早稲田が対戦することが予想される相手校の試合のビデオを会場で撮影し、そのビデオを何度も繰り返し再生しながら選手の特徴を事細かに文章にしていく。技術面での長所、短所はもちろん、体力はあるのか無いのか、足は速いのか遅いのか、緊張した場面ではどのようなプレーをするのか、集中力は高いのか低いのかなど体力面やメンタル面についても様々な角度から分析をする。そして、対戦が予想される早稲田の選手との試合をシミュレートし、その選手のプレースタイルを貫きつつ勝利する最善の方法を考える。

まずは分析班がビデオを見ながらあらゆる視点から分析を行う。次に選手、ベンチコーチ、監督を交えての分析ミーティングを行う。分析ミーティングでは実際に対戦経験のある選手や普段から一番選手の近くで練習のサポートに務めている学生のベンチコーチ、指導者である監督の意見を取り入れて、煮詰めていく。そして試合後の再分析というふうに 3 段階に分けて分析を行い、その分析結果を踏まえて試合に臨む。

伊藤潤

副査 関一誠先生

第三章 分析データの活用方法

私がダブルスの試合で選手 H・選手 I 組と対戦した事例を報告する。

こちらのサービスゲームでは相手が分析データ通りのプレーをしてきたが、リターンゲームでは想定外の展開で苦戦した。

最終的に私達は 7-5.7-5 というスコアでこの試合に勝利することができたが、その要因としては分析データに加えて、それと異なった時や想定外の状況に対して冷静に対処できた所にあったのではないかと考える。

それに加えて分析データの活用方法に関する選手へのアンケート調査を行い、より良い活用方法を考察する。

<アンケート内容>

Q1. 戦略分析の長所

Q2. 戦略分析の短所

Q3. シングルスでは分析データをどのように使うか。

Q4. ダブルスでは分析データをどのように使うか。

Q5. 具体的に戦略分析にどのような情報を求めているか。

アンケートの総評としては、分析データは選手が対戦相手に対する作戦を組む手助けになっていると同時に、自分のプレースタイルを発揮する際の障害になっていることが分かる。また、シングルスでは相手の弱点、ダブルスでは相手の得意パターンに注目する傾向にある。

この結果をもとに選手は多くの情報を全て鵜呑みにせず、自分に必要なものだけを選び試合に臨んでいるということが分かった。

第四章 まとめ

分析データの活用によって選手は試合に臨む際に作戦を組むことができ、これによって戦略的に優位に立てることが分かった。また、事前に相手の情報を準備および整理することによってメンタル的なサポートにもなっていると言える。しかし、それと同時に選手の潜在的なプレースタイルを発揮する妨げにもなっているため、選手は各個人で自分に必要な情報を適度に認識することが最も重要であると考えられる。